

音声データ伝送に適応した無線センサーネットワークシステムの
技術的条件に関する調査検討会（第4回）議事録要旨

日 時：平成27年3月24日（火）15時00分～17時00分

場 所：アイーナいわて県民情報交流センター7階

配布資料：

- 資料 4-1 第3回調査検討会議事録(案)
- 資料 4-2 干渉検討結果(WG 結果の報告)
- 資料 4-3 報告書案に対する意見(2次照会)
- 資料 4-4 報告書(案)
- 参考資料 1 開催要綱
- 参考資料 2 構成員名簿
- 参考資料 3 調査検討会（第1回WG）議事録

1. 開会

座長より開会宣言が行われた。続いて、総務省総合通信基盤局電波部移動通信課よりご挨拶が行われた。

●総務省としては、本調査検討会の結果を受け迅速に制度整備に着手する所存である。岩手県から輩出した無線システムが、全国の災害情報システムや通信インフラ情報の伝達手段として今後普及していく事を総務省としても期待している。

2. 配布資料の確認

事務局より配布資料の確認が行われた。

3. 議事：

(1) 第3回調査検討会議事録案について

資料 4-1 に基づき資料の確認がされたが、特に質疑応答等は無く議事録案は承認された。

(2) 干渉検討結果(WG 結果の報告)について

資料 4-2 に基づき、事務局より干渉検討結果(WG 結果の報告)について説明が行われ確認された。以下に主な質疑応答を示す。

●電波の質の問題に関する指摘事項については、音声の有無で質が比較できる資料を要求し事務局より承諾の返答を得ているが、どう取り扱うのかについて見解を求めたい。

→元のデータとの比較はしたが特に変更は無かったと認識している。なお、データについては存

在する。

→データがあるのであれば、報告書に反映するようにしていきたいと思う。

(3) 報告書案に対する意見(2次照会)について

資料 4-3 に基づき、事務局より報告書案に対する意見(2次照会)について説明が行われ確認されたが、特に質疑応答は無かった。

(4) 報告書(案)について

資料 4-4-1 並びに資料 4-4-2 に基づき、事務局より報告書(案)について説明が行われ確認されたが、特に質疑応答は無く報告書(案)は承認された。

(5) 東北総合通信局長及び大槌町長より挨拶、並びに報告書手交について

東北総合通信局長、大槌町長より挨拶が行われ、続いて座長、副座長より東北総合通信局長、大槌町長へ報告書の手交が行われた。

●本調査検討会については通信分野における震災の教訓、即ち普段使っている携帯電話等が途絶してしまった場合の情報伝達をどう考えるかという課題に対し、解決策を作れないかという事で検討をお願いしたものである。3年前に制度化した920MHz帯のセンサーシステムを採り上げたところであるが、専らデータ伝送を行う目的として制度を組み立てている為、音声を送ろうとすると様々な工夫や見直しが必要になる可能性がある。行政としては、今回の取り纏めを受け制度整備に向けた手続きを速やかに進めていきたいと考える。

●大槌町では東日本大震災時に防災行政無線等が失われ、避難所と本部、そして本部と県庁等の通信が出来なかったという事で、大槌町は情報が無かった状態であった。今回の震災を経て二度と震災による津波によって犠牲者を出さないという防災に関する取組は当然であるが、更に有事の際に通信の問題で対応出来ないような事はあってはならない。今回、音声データをパケットで通信できるような技術的、法的な整備等も検証を行って頂いたという事で、これから有事の際の活用について大変に期待をしているところである。

(6) その他

●報告書については再度事務局にて見直しを行う。修正については座長、副座長へ一任という事でご了承願いたい。完成した報告書については、構成員の皆様へ送付させて頂く。制度化については、審議会等にかける必要がある為そちらの調整については、東北総合通信局にて責任を持って進めさせて頂く。防災無線デジタル化や河川センサー、テレメータ等検討していく中で920MHzセンサーシステムに係わる要望があったら、企画調整課に気軽に相談して欲しい。

4. 閉会

座長、副座長より挨拶が行われた後、座長より閉会宣言が行われた。

●今回のセンサーネットワークシステムについて、災害時に予知も含めデータにて情報収集を行う手段として有効である事に加え、今回の調査検討会にて防災無線の補完となる事など災害時に非常に役立つシステムである事が判ったので、大槌町様以外の自治体様にも是非導入を検討して頂きたいと思う。

●自治体の構成員の皆様から防災無線の現場から見た様々な、貴重な意見を頂き感謝申し上げます。一方、この調査検討会を通して出た課題、特にデューティ比の問題に関しては技術的、制度的の両方の側面から取り組んでいかなければならないと思う。この明らかになった課題をもとに制度化を進めて頂いて、早期に実用化を実現して頂きたい。

以上